

# 1 学年

## 实践例

# くもまでとどけ

～くじらぐもや子どもたちのきもちになってこえにだしてよもう～

「くじらぐも」のがくしゅうのながれ

どんなふうに  
よんだらいいかな？

## 1. がくしゅうのながれをかくにんしよう！

☆2ねんせいにおんどくはっぴょうをしよう！



## 2. じんぶつのきもちをかんがえよみかたをくふうしよう！

☆ばめんわけをして，おはなしのながれをつかもう。

☆☆☆

くじらぐもと子どもたちのきもちを  
かんがえてよみかたをくふうしてよもう。

くじらぐもと子ども  
たちはどんなきもち  
なのかな？



を見つけよう！！

## 3. おんどくはっぴょうかいをしよう！

☆はっぴょうするばめんをししゃし，

まとめのおんどくをしよう。

☆おんどくのれんしゅうをしよう。

☆2ねんせいにはっぴょうしよう。

じんぶつのきもちを  
かんがえながらおん  
どくするといいいね。



## 第1学年 国語科学習指導案

1. 単元名「くもまでとどけ～くじらぐもや子どもたちの気持ちになって声に出して読もう～」  
教材名「くじらぐも」(光村図書一下)

2. 本単元で付けたい力

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 【C(1)ア】
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 【C(1)ウ】
- 句読点の打ち方や、かぎ(「 」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 【伝国(1)イ(オ)】

3. 言語活動例

本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 【C(2)ア】

4. 単元について

### 単元観

○本単元では、単元を貫く言語活動として、「くじらぐもや子どもたちの気持ちになって声に出して読む」を位置づけた。この活動では、会話文にかぎ(「 」)を使うことを押さえ、動作化して読むことによって、物語に登場する子どもたちの思いに感情移入して読んでいくようにする。そうすることによって、ただ声に出して読むという意識から、場面の様子をより豊かに音読をしようとする気持ちをもたせたい。また、くじらぐもと子どもに分かれて役割読みをさせたり、語のまとまりに気を付けさせたりする。

○本教材は、自分たちと同じ1年生であり体育の授業時間という身近な現実の中から、ふいと幻想の世界に入り、幻想の世界で遊んだ後にまた現実の時間と空間に戻るという設定になっている。また、挿絵や言葉を手掛かりに、場面の様子を容易に想像することができる。そのため、児童は共感し意欲をもって楽しく読み進めていくことができる。文型の繰り返しや言葉のリズムの面白さがあり音読するのに適した教材である。みんなで手をつないで雲に飛び乗ろうとする場面、雲に乗って空の旅をする場面、ジャングルジムでくじらぐもと分かれる場面では、自分の思いをのびのびと表現することができると思われる。

### 児童観

省略

### 指導観

○第1次では、教師の範読(グッドモデル・バッドモデル)を聞き比べ、どちらの音読がよいかを理由をつけて述べさせる。そして、本単元でのゴールを「くもまでとどけ～くじらぐもや子どもたちの気持ちになって、声にだして読もう～」ということを確認し、学習の見通しをもたせる。

○第2次では、物語の設定(登場人物・時・場所)をつかませる。また、場面ごとの内容や人物の行動を挿絵を手がかりにまとめていく。そして、会話文を学習させるために、会話文を役割読みや動作化をさせて音読させる。繰り返し音読させることにより、姿勢や口形、声の大きさや速さなどを工夫させたい。物語の場面の様子を詳しく読むための手立てとして、挿絵やくじらぐもの切り抜き絵等を活用したり、くじらぐもに乗っている自分の絵を描かせたりすることによって、お話の中の子どもたちに感情移入しやすくしていく。子どもたちやくじらぐもになりきって動作化しながら読むことによって、友だちとの感じ方のちがいにも気付かせる。

○第3次では、自分で音読する場面を選び、これまでに学習した音読の工夫を基にしてどう読むのかを考えさせる。選んだところを視写し、どのように読むのかを2年生に発表してから音読発表をする。2年生からもらった評価をもとに今後の音読に生かせるようにする。

5. 単元構想（単元計画と評価）

単元を貫く言語活動 くじらぐもや子どもたちの気持ちになって声に出して読む。

単元の目標

○会話文を工夫しながら、その様子が表れるように声に出して読むことができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・想像を広げて、物語を楽しんで読もうとしている。	・会話文を工夫しながら、場面の様子がよく分かるように音読している。【C(1)ア】 ・場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読んでいる。【C(1)ウ】	・会話はかぎ（「 」）を使って書くことを理解している。 【伝国(1)イ(オ)】

指導と評価の計画（全8時間） 〈蓮池版習得・活用型授業 Aパターン〉

		学習活動	評 価			評価方法	
			関	読	言		評価規準
第一次	1	○「くじらぐも」を読み、学習の見通しをもつ。 ・2年生に音読発表聞いてもらうことを知る。	◎			・学習のねらいを知り、音読発表をすることに興味をもち、楽しんでお話を読もうとしている。	発言 行動観察 ノート
	2	○お話の大体をとらえる。 ・場面を分ける。 ・絵を並べ替えてお話の大体をとらえる。		◎		・お話を場面分けし、おおまかな流れをつかんで読んでいる。	発言 行動観察 ノート
第二次	3 (展開例イ)	○くじらぐもと出会い子どもたちとくじらぐもが呼び合う様子と気持ちを読み取る。 ・会話の部分に着目し、子どもたちやくじらぐもの気持ちを考える。 ・話し合ったことをもとに工夫して音読する。		◎		・子どもたちと子どもたちのまねをしているくじらぐもの様子が分かるように、声の大きさや速さを工夫して読んでいる。	発言 行動観察 ノート
	4 (展開例ロ)	○くじらぐもに飛び乗ろうとする様子を読み取る。 ・会話の部分に着目し、子どもたちやくじらぐもの気持ちを考える。 ・話し合ったことをもとに工夫して音読する。		◎		・くじらぐもととびのろうとするときの子どもたちとくじらぐもの様子が分かるように、声の大きさや速さに気を付けて読んでいる。	発言 行動観察 ノート
	5	○くじらぐもに乗って空を旅したあと、別れる様子を想像し、気持ちを読み取る。 ・会話の部分に着目し、子どもたちやくじらぐもの気持ちを考える。 ・話し合ったことをもとに工夫して音読する。		◎		・くじらぐもとと子どもたちの気持ちや様子が分かるように、声の大きさや速さを工夫して読んでいる。	発言 行動観察 ノート
第三次	6	○まとめの音読をする。 ・会話文を視写する。		◎	○	・場面の様子が伝わるように音読をしている。 ・「 」を正しく使って書いている。	音読 ワークシート
	7	○音読の練習をする。		◎		・場面の様子が伝わるように音読をしている。	音読
	8	○音読発表をする。 ・2年生に発表する。 ・学習の振り返りをする。		◎		・場面の様子が伝わるように音読をしている。	音読

学習を支える指導

- 自分の意見を持ち、ペア対話や全体での話し合いで友達の意見と比べながら聞く。（学習集団育成の視点）
- 根拠をもとに自分の考えを話させる。（表現力育成の視点）

## 6. 展開例 I の指導 (3 / 8)

### (1) 目標

○子どもたちと子どもたちのまねをしているくじらぐもの様子や気持ちが分かるように、声の大きさや速さを工夫して読むことができる。

### (2) 評価規準

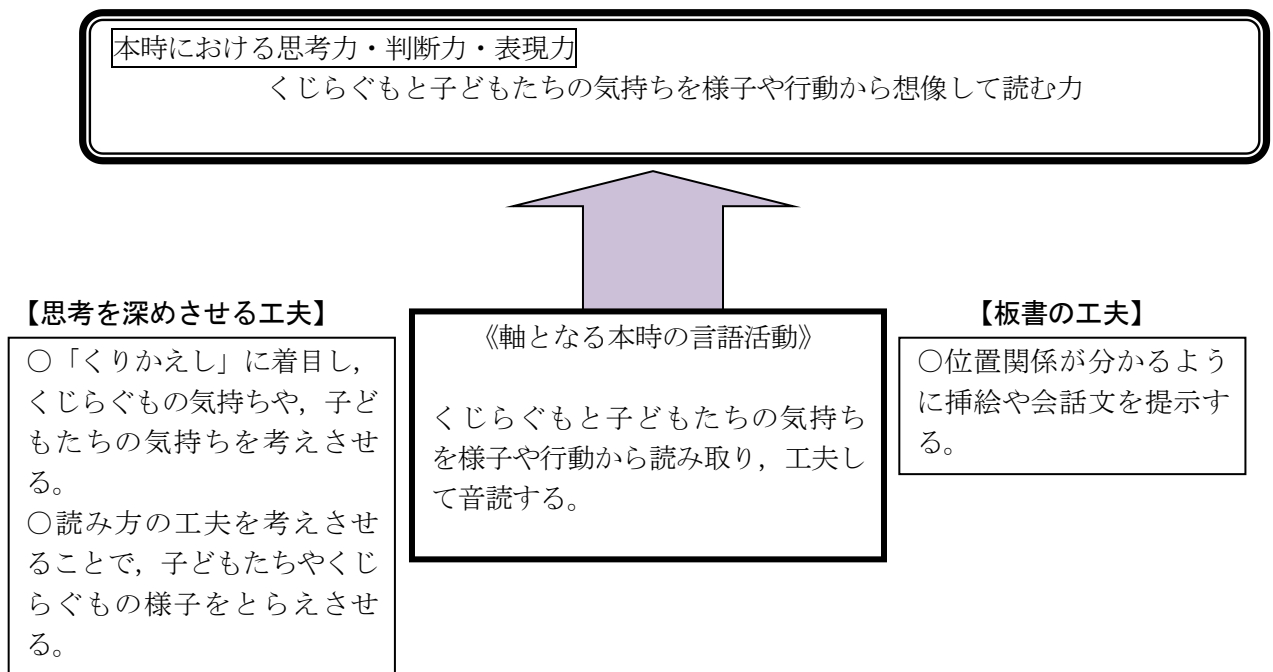
#### B 概ね満足できる状況

◆子どもたちと子どもたちのまねをしているくじらぐもの様子が分かるように、声の大きさや速さを工夫して読んでいる。

#### A 十分満足できる状況

◇子どもたちと子どもたちのまねをしているくじらぐもの気持ちや様子を想像し、声の大きさや速さを工夫して読んでいる。

### (3) 本時における研究主題の追究



(4) 展開

	学習活動	○主な発問や指示・児童の姿	◎支援◆評価（評価方法）
つかむ (5分)	1 前時までの学習を振り返り本時の課題を知る		◎前時までの学習の流れを提示しておき、本時を確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>本時の課題</p> <p>子どもたちとくじらのようすがわかるようによもう。</p> </div>			
考える (10分) ・学び合う (25分)	<p>2 本時の場面を音読する（1場面）</p> <p>3 子どもたちとくじらの様子を読み取る</p> <p>（1）個人思考</p> <p>（2）全体での話し合い</p> <p>4 子どもたちの気持ちを想像し、音読する</p>	<p>○読み方の工夫を考えながら読みましょう。</p> <p>○会話文が8つありました。誰が言っている言葉かを確かめましょう。</p> <p>○読み方の工夫を教科書に書きましょう。どうしてそのように読んだらいいか理由も考えましょう。</p> <p>○みんなに発表しましょう。</p> <p>「おうい」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空の上に聞こえるように大きな声で読む。</li> <li>「ここへおいでよう。」</li> <li>・さそっているように手まねきしたらいい。</li> </ul> <p>○くじらが、まねをして同じことを言っているね。まねをしているのはここだけでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操しているのをまねしていた</li> </ul> <p>○くじらはどうして、こんなまねをするんだろうね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校がすきだから</li> </ul> <p>○子どもたちはどうだろう。ふきだしに書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなりたいな</li> </ul> <p>○今、書いたことを想像しながら読んでみましょう。</p>	<p>◎時、場所、人物の確認をする。</p> <p>◎まず、会話文の工夫を考えさせる。終わったら地の文にうつる。</p> <p>◎子どもたちの気持ちや位置関係から声の大きさを考えさせる。</p> <p>◎動作化でイメージして、くものくじらと呼びかけあっている子どもたちに同化できるようにする。</p> <p>◎繰り返される会話文から、くじらがまねをしていることをつかませる。</p> <p>◎行動をまねしていることに気づかせる。</p> <p>◎「～も」という言葉の繰り返しに注目させる。</p> <p>◎2～3人発表させる。</p> <p>◆子どもたちと子どもたちのまねをしているくじらぐもの様子が分かるように、声の大きさや速さを工夫して読んでいる。 (発表・ノート・行動観察)</p>
まとめる (5分)	5 学習を振り返る	○子どもたちやくじらの気持ちになって読めていました。つぎはくじらにとびのるところです。	◎子どもたちの気持ちが高まっていることを確認する。

【板書】

くじらぐも  
なかがわ りえこ

④ 子どもたちとくじら  
のようすがわかるように  
よもう。

右むきのくじらの絵

「あ、くじらは、きつと  
がつこうがすきなんだね。」うれしそう

「おうい。」・空にむかってよぶように  
・ゆっくり大きなこえ

「おうい。」・空からよびかける

「こいこい」 おいでよう  
「こいこい」 おいでよう  
「こいこい」 おいでよう

「よしきた。くもの  
くじらにとびのろう。」

はりきって

すこしのばす  
さそっている

左むきのくじらの絵

「一、二、三、四」

「まわれみぎ。」

くじらぐも  
まねをしている

子どもたち  
と先生の絵

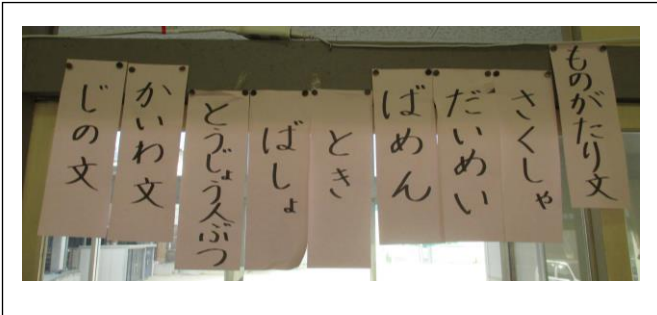
・ぼくたちもなかよくなりたいな  
・そっちにいくよ

【資料】

① 「くじらぐも」  
教材分析シート

単元計画を考える前には、  
教材分析シートに記入して、  
教材研究を行った。  
今回は、場所と挿絵をもと  
にし、まず大きく3つに分け  
ました。

② 教室環境 ～学習用語～



既習の学習用語を教室に掲示  
しました。学んだことが次の学習でも  
使えるようにしています。

**物語文教材分析シート** (二瓶弘行の「教材研究」の観点に基づく)

1年	【教材名】	「くじらぐも」	なかがわ りえこ
1. 小さな場面構成	一場面① (P4～5)	一場面② (P6～7)	
	二場面① (P8～9)	二場面② (P10～11)	
	三場面 (P12～13)		
2. 場面構成	はじめ	なか	おわり
	第一場面 (P.4～P.7)	第二場面 (P.8～P.11)	第三場面 (P.12～P.13)
	3. 作品のあらすじ		
こどもたちが校庭で体操をしていると空にうかぶくじらのかたちをした雲も体操をはじめます。みんながくじらぐもの「おうい」と声をかけると、くじらぐもは「ここへおいでよう。」とみんなをさそいます。子どもたちは、手をつないでジャンプし、くじらぐもに飛び乗ろうとします。すると風が吹いてきて、子どもたちはあっという間にくじらぐもに乗っていました。男の子も女の子も先生も、くもにのっているところを放しました。星になったので、みんなは帰ることにし、くじらぐもはみんなをジャングルジムにおろしたあと、元氣よく青い空の中へ帰っていききました。			
4. 設定	時	4時間目	
	場	運動場	
5. 前ばなしと後ばなしの対応	人物	1年2組のこどもたち 先生・くじらぐも	
	6. クライマックス場面の検討	・くじらぐもに飛び乗ろうとジャンプす子どもたちをくじらぐもが応援する。 ・どんだんくじらぐもに近づいていき、子どもたちとくじらぐもの心の距離も縮まっていく。 ・くじらぐもに飛び乗ることができた。	
7. 中心発問 (5分間の発問)	子どもたちは、くじらぐもにどうして飛び乗れたのかな		
8. 重要発問 (どの場面でも、どんな発問)	くじらぐもに乗ったときにはどんな気持ちかな		
9. 作品の視点	三人称全知視点		
10. 私の「作品の心」	夢のくじらと子どもたちとの心の交流		

## 7. 展開例Ⅱの指導（4／8）

### （1）目標

○くじらぐもに飛び乗ろうとしている子どもたちやくじらぐもの様子が分かるように、声の大きさや速さを工夫し読むことができる。

### （2）評価規準

#### B 概ね満足できる状況

◆くじらぐもに飛び乗ろうとするときの子どもたちとくじらぐもの様子が分かるように、声の大きさや速さに気を付けて読んでいる。

#### A 十分満足できる状況

◇くじらぐもに飛び乗ろうとするときの子どもたちとくじらぐもの様子が分かるように、声の大きさや速さに気を付けて読むとともに、その根拠を話している。

### （3）本時における研究主題の追究

本時における思考力・判断力・表現力

くじらぐもと子どもたちの気持ちを様子や行動から想像して読む力

#### 【思考を深めさせる工夫】

○会話文の「くりかえし」に着目し、くじらぐもの気持ちや子どもたちの気持ちを考えさせる。

#### 《軸となる本時の言語活動》

くじらぐもと子どもたちの気持ちを様子や行動から読み取り、工夫して音読する。

#### 【板書の工夫】

○だんだん声が大きくなっていく様子を字の大きさを変えることによって、視覚的に分かりやすくする。



(4) 展開

	学習活動	○主な発問や指示・児童の姿	◎支援◆評価（評価方法）
つかむ (5分)	1 前時の場面を振り返る  2 本時の課題をつかむ	○くじらにとびのろうとはりきって いましたね。今日はとびのろう とするところです。	◎前時までの学習のまとめを 掲示しておき、「くじらにとび のろう。」とはりきっていた子 どもの様子を本時につなげ る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>本時の課題</p> <p>くじらぐもととびのるときのようなすがわかるようによもう。</p> </div>			
考える (10分)・学び合う (20分)	3 2場面を音読する  4 とびのろうとするとき の様子を読み取り音読の 工夫を考える  (1) 個人思考  (2) 全体での話し合い	○読み方の工夫を考えながら読み ましょう。  ○子どもたちはくじらぐもととび のるためになにをしましたか。 「手をつないでまるいわになっ たよ」 「ジャンプしたよ」 「天までとどけ……。」 ○読み方の工夫を教科書に書き込 みましょう。 ◎ つよく ◎大きな声で  ○どんなふうを読んだらよいです か。 ○とびのろうとするとき、子ども たちとくじらぐもはどんな気持ち でしたか。  <u>子どもたち</u> 「みんなでくじらぐもに乗りた いな。」 「こんどこそとぶぞ。」 「次こそは！！」  <u>くじら</u> 「みんなに乗ってほしいな。」 「1回目は乗れなくて残念。次は もっとがんばれ。」 「絶対乗ってね。」	◎くじらぐもととびのるため になにをしたのか発表させ る。  ◎どうしてその読み方をした のか考えさせる。  ◎くじらぐもと子どもたちに 分かれて、動作化と音読をさ せ、跳ぶ高さや声の大きさや 気持ちの高まりに気づかせ る。 ◎会話文の「くりかえし」に 着目し、くじらぐもの気持ち や子どもたちの気持ちを考え させる。 ◎子どもたちやくじらの声 が、だんだん大きくなってい くことに気づかせる。  ◆くじらぐもに飛び乗ろうと するときの子どもたちとくじ らぐもの様子が分かるよう に、声の大きさや速さに気を 付けて読んでいる。 (発表・ノート・行動観察)
まとめる (10分)	5 学習を振り返る	○くじらぐもととびのろうとする ときのようすがわかるように読み ましょう。	◎みんなの気持ちが高まりゆ く心情やくじらがみんなを応 援する気持ちを読み取り、音 読させる。

【板書】

【資料】

①場面の様子を想像しながら読ませる工夫

次時では、自分たちをかいいた絵をくじらぐもにのせ、想像したことを書きこみました。また、想像したことを入れて音読することで、子どもたちになりきって音読することができていました。

(くじらにのってたびをする場面の板書)

児童の感想  
 ◎よみかたを、ゆっくりやつよくなどくふうができておもしろかった。  
 ◎じぶんのかいた絵をくじらにのせたとき、ほんとうにじぶんがおはなしのなかにはいったみたいでうれしかった。

(くじらがまねをしている場面を動作化)



④第3次で2年生に音読発表



『くじらぐも おんどくはびょう』  
 ④くじらぐもや子どもたちになりきってよもう。  
 わたしは、  
 「さようなら」  
 のところを。  
 空にきこえるようによみます。  
 わけは、  
 空に、くじらぐもがいます。

さいてくれた人  
 かんそうやアドバイザー  
 かいわんが、いっしょに読みました。

めあて  
 こえ  
 はやぎ  
 ◎◎△  
 ◎◎△

『くじらぐも おんどくはびょう』  
 ④くじらぐもや子どもたちになりきってよもう。  
 わたしは、  
 「天までとけ、二、三をだん  
 だんおおきくよめていたのでよか  
 たびす。  
 のところを。  
 だんだんおおきくよみます。  
 わけは、  
 のりたけとけつきもちがよくな  
 くなっていくからです。

さいてくれた人  
 かんそうやアドバイザー  
 かいわんが、いっしょに読みました。

めあて  
 こえ  
 はやぎ  
 ◎◎△  
 ◎◎△

(児童のふりかえりより)

○もうすこし、さようならのこえを大きくよんだほうがいいとおもった。はじめよりじょうずによめた。

○もうすこし、大きなこえでよんだらいいといわれました。

○じんぶつのきもちをかんがえてくふうしたらきもちがよかった。

○「さようなら。」のところが、とおくにいつているみたいでよかったといわれてうれしかったです。「では、かえろう。」のところがまえよりじょうずになりました。